

研究課題	新潟市における健康習慣の遵守状況と慢性腎臓病（CKD）の包括的評価
支援番号	GC00420131
研究事業期間	平成25年4月1日から平成26年3月31日
助成金総額	400,000円
研究代表者 (所属機関)	若杉 三奈子（新潟大学教育研究院医歯学系 臓器連関研究センター）
研究分担者 (所属機関)	風間 順一郎（新潟大学医歯学総合病院）、成田 一衛（新潟大学大学院医歯学総合研究科）
研究キーワード	慢性腎臓病（CKD）、生活習慣、特定健康診査、包括的評価、対策立案
研究実績 の概要	<p>慢性腎臓病（CKD）対策は、喫緊の課題である。新潟市における CKD 対策の課題を明らかにするため、特定健診ならびに更生医療のデータを用い、健康習慣の遵守状況および CKD の包括的評価を行った。</p> <p>1. 5つの健康習慣（禁煙、体重管理、節酒、食事、運動）の遵守状況 男女とも0~1項目遵守している人の割合は全国よりも低かったが、5項目すべて遵守している人の割合も低かった。項目別では、運動習慣が低く、男性でのみ節酒が全国よりも悪かった。</p> <p>2. 高血圧・糖尿病・脂質異常症・蛋白尿の有病率 高血圧の割合、血糖値が高い人の割合、LDL コレステロールが高い人の割合は、いずれも男女とも全国よりも低かった。脂質異常症のうち、HDL コレステロールが低い人は、男性では全国よりも少なく、女性は全国と同レベルであった。中性脂肪が高い人の割合が男女とも全国よりも多かった。男女ともすべての年代で蛋白尿を認める人が全国よりも多かった。</p> <p>3. 腎機能低下者の有病率 腎機能低下者の割合は、男女とも全国よりも低かった。</p> <p>4. 新潟市の透析導入率 女性は全国と同程度であったが、男性は85歳以上で全国よりも透析導入率が高かった。</p> <p>以上まとめると、新潟市は全国と比べ、男女とも尿蛋白陽性者の割合が高く、中性脂肪高値が多く、運動習慣が少なく、男性で節酒の割合が低いことが明らかになった。腎機能低下者は男女とも全国よりも少ないが、透析導入率は全国よりも低くはない。腎臓・透析の専門家として、以下を提言する。</p> <p>新潟市における CKD 対策として、運動習慣と節酒を実現できるような市民への情報提供、ならびに、環境づくりの推進を提言する。運動習慣の少なさ、飲酒量の多さは、いずれも中性脂肪高値や蛋白尿に繋がる。生活習慣は、個人の合理的判断だけではなく、社会的、経済的環境に左右される部分も大きいことが明らかになっているため、運動習慣や節酒を実行するために、環境づくりの推進も重要になる。</p> <p>本研究は、健診受診者を対象としているため、市民全体を反映していない可能性はある。しかし、健康的な生活習慣の遵守は、CKD のみならず、良好な生命予後や、2型糖尿病、脳卒中、冠動脈疾患、癌などのさまざまな病気を防ぐ。さらには若い頃の健康習慣が中年期の生活習慣病を防ぎ、老後の生活の質向上や医療費抑制と関連する。そのため、すべての市民の生活習慣に介入する本対策案は、CKD 発症予防にとどまらず、さまざまな波及効果が期待できると考える。</p>